

第99回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書
連結計算書類の連結注記表
株主資本等変動計算書
計算書類の個別注記表
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

東京テアトル株式会社

連結株主資本等変動計算書、連結注記表、株主資本等変動計算書、個別注記表につきましては、法令及び当社定款の定めにより、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.theatres.co.jp>) に掲載することにより株主のみなさまに提供しております。

連結株主資本等変動計算書 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)

(単位 千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
平成26年4月1日残高	4,552,640	3,737,647	3,397,227	△237,126	11,450,388
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△78,937		△78,937
当 期 純 利 益			322,905		322,905
自己株式の取得				△79	△79
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	243,968	△79	243,888
平成27年3月31日残高	4,552,640	3,737,647	3,641,195	△237,206	11,694,277

(単位 千円)

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土 地 再 評 価 差 額 金	その他の包括利益 累 計 額 合 計	
平成26年4月1日残高	382,019	1,598,439	1,980,459	13,430,848
連結会計年度中の変動額				
剰 余 金 の 配 当			—	△78,937
当 期 純 利 益			—	322,905
自己株式の取得			—	△79
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)	151,061	91,684	242,745	242,745
連結会計年度中の変動額合計	151,061	91,684	242,745	486,634
平成27年3月31日残高	533,081	1,690,123	2,223,205	13,917,482

連 結 注 記 表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結の範囲に関する事項

①連結子会社 7社

札幌開発㈱ほか 6社

前連結会計年度まで連結の範囲に含めておりました㈱エイチ・エス・ジーは平成26年5月に清算終了したことにより、連結の範囲から除外しております。なお、清算までの損益計算書については連結しております。

②非連結子会社 0社

(2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

(3) 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社7社の決算日はすべて連結決算日と一致しております。

(4) 会計処理基準に関する事項

①重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるものについては時価法（評価差額は全部純資産直入法、売却原価は移動平均法による原価法）、時価のないものについては移動平均法による原価法により評価しております。

たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び販売用不動産

販売用不動産は個別法により、その他は最終仕入原価法によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法によっております。

②重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、取得時の法人税法に規定する方法と同一の方法によっております。また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、改正前の法人税法に基づく償却可能限度額まで償却が終了した翌年より5年間で残存価額と備忘価額の差額を均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、従来の役員退職慰労金内規にならない当連結会計年度末要支給額を計上しております。

④重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップの特例処理の要件を満たす場合には、特例処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…金利スワップ取引等

ヘッジ対象…変動金利の借入金

ハ. ヘッジ方針

内部規程である「市場リスク管理規則」に従い、金利変動リスクをヘッジするために金利スワップ取引等を行っております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

一定期間における金利スワップ適用後の実質金利の変動幅が一定範囲内で固定化されていることを判断基準としております。

⑤その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異（405,591千円）については、15年による按分額を費用処理しております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度まで、営業外費用「その他」に含めて表示しておりました出資金運用損は、営業外費用の100分の10を超えたため、当連結会計年度は営業外費用「出資金運用損」として区分掲記しております。なお、前連結会計年度の営業外費用「その他」に含まれる出資金運用損は6,711千円であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供されている資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

担保資産の内容及びその金額

建物及び構築物	2,614,861千円
土地	7,544,568千円
投資有価証券	850,773千円
合計	11,010,203千円

担保に係る債務の金額

一年内返済予定の長期借入金	426,000千円
長期借入金	2,274,000千円
合計	2,700,000千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

4,447,185千円

- (3) 当社は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日改正）に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関する金額を課税標準とする税金に相当する金額である繰延税金負債を負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出する方法及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価による方法を採用しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額を下回っておりません。

- (4) 当社及び連結子会社におきましては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

当座貸越極度額	1,070,000千円
借入実行残高	—
差引額	1,070,000千円

4. 連結損益計算書に関する注記

- (1) 固定資産除却損の内訳

建物及び構築物	10,685千円
機械装置及び運搬具	191千円
器具及び備品	284千円
電話加入権	768千円
解体撤去費	4,880千円
計	16,809千円

- (2) 減損損失の内訳

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額
東京都中央区	惣菜・洋菓子工場及び洋菓子の販売店舗	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、器具及び備品	42,036千円
東京都千代田区	惣菜の販売店舗	建物及び構築物	5,035千円

当社グループは、原則として事業所の所在する物件を単位として資産をグループ化しており、収入の減少により収益性が著しく低下した資産グループにつき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（47,071千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物34,060千円、機械装置及び運搬具575千円、器具及び備品12,435千円であります。

なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式 普通株式	80,130,000	—	—	80,130,000
自己株式 普通株式	1,192,973	560	—	1,193,533

(変更事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加

560株

(2) 配当に関する事項

①配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	78,937	利益 剰余金	1.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の 種類	配当金の 総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	78,936	利益 剰余金	1.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、主に銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客及び取引先の信用リスクは、与信管理規則に沿ってリスク軽減を図っております。また、買取債権は主としてサービサー法に規定されている特定金銭債権であり顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されておりますが、「与信管理規則」に沿って取引先の状況を定期的にモニタリングし、期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。投資有価証券は、主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金及び設備投資資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引等を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブ取引は借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引等であります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位 千円)

	連結貸借対照表 計上額 (* 1)	時価 (* 1)	差額
①現金及び預金	3,062,666	3,062,666	—
②受取手形及び売掛金	253,160		
貸倒引当金 (* 2)	△28		
	253,132	253,132	—
③買取債権 (* 3)	1,438,807		
	△358,944		
	1,079,863	1,079,863	—
④短期貸付金	1,040	1,040	—
⑤投資有価証券			
その他有価証券	1,985,381	1,985,381	—
⑥長期貸付金	1,160	1,160	—
⑦差入保証金 (* 4)	620,360	620,358	△2
⑧支払手形及び買掛金	(755,121)	(755,121)	—
⑨短期借入金	(60,000)	(60,000)	—
⑩未払金	(287,208)	(287,208)	—
⑪未払法人税等	(59,595)	(59,595)	—
⑫一年内償還予定の社債	(180,000)	(180,000)	—
⑬長期借入金 (* 4)	(3,124,088)	(3,110,453)	△13,633
⑭リース債務 (* 4)	(124,313)	(119,313)	△5,000
⑮長期未払金	(12,534)	(12,534)	—
⑯預り保証金 (* 4)	(2,053,067)	(2,053,063)	△4
⑰デリバティブ取引	—	—	—

(* 1) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(* 2) 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

(* 3) 買取債権に係る貸倒引当金を控除しております。

(* 4) 1年以内に期限到来の流動資産に含まれている差入保証金、及び1年以内に期限到来の流動負債に含まれている長期借入金、リース債務、預り保証金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

①現金及び預金 ②受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

③買取債権

買取債権については信用リスクを加味した見積将来キャッシュ・フロー等による回収可能見込額に基づいて買取価額を決定しております。

個々の債務者の信用状態が買取後大きく異ならない場合には、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

また、個々の債務者の信用状態が買取後大きく異なり、見積将来キャッシュ・フローが買取時より減少している場合には、当該減少分を貸倒見積高として算定しているため、時価は連結決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該帳簿価額をもって時価としております。

④短期貸付金 ⑥長期貸付金

貸付期間ごとに、合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっておりますが、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっております。

⑤投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

⑦差入保証金

返済期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しております。

⑧支払手形及び買掛金 ⑨短期借入金 ⑩未払金 ⑪未払法人税等 ⑫一年内償還予定の社債

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑬長期借入金 ⑭リース債務

長期借入金及びリース債務の時価については、元利金の合計を新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記⑰参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

⑮長期未払金

支払期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しておりますが、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっております。

⑯預り保証金

返還期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しております。

⑰デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。（上記⑬参照）

（注２）投資有価証券 非上場株式（連結貸借対照表計上額302,057千円）は、市場価額がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

7. 賃貸等不動産に関する注記

（１）賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用オフィスビル（土地を含む）を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は881,977千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

（２）賃貸等不動産の時価等に関する事項

（単位 千円）

連結貸借対照表計上額	時価
11,374,299	15,606,008

（注１） 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

（注２） 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額によっております。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、適切に市場価額を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。また、重要性が乏しいものについては、「不動産鑑定評価基準」等に基づいて自社で算定した金額を時価としております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 176円31銭

(2) 1株当たり当期純利益 4円09銭

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は次のとおりであります。

連結損益計算書上の当期純利益	322,905千円
普通株式に係る当期純利益	322,905千円
普通株式の期中平均株式数	78,936,918株

9. その他の注記

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 (平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

(単位 千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	そ の 他 金 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計
平成26年4月1日残高	4,552,640	3,573,173	164,473	3,737,647
事業年度中の変動額				
剰 余 金 の 配 当				—
当 期 純 利 益				—
自己株式の取得				—
税率変更に伴う 積立金の調整額				—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)				—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—
平成27年3月31日残高	4,552,640	3,573,173	164,473	3,737,647

(単位 千円)

	株 主 資 本				
	利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株主資本合計
	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計		
	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
平成26年4月1日残高	1, 001, 394	1, 507, 539	2, 508, 933	△237, 126	10, 562, 094
事業年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当		△78, 937	△78, 937		△78, 937
当 期 純 利 益		116, 539	116, 539		116, 539
自己株式の取得			－	△79	△79
税 率 変 更 に 伴 う 積 立 金 の 調 整 額	51, 345	△51, 345	－		－
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 事 業 年 度 中 の 変 動 額 (純 額)			－		－
事業年度中の変動額合計	51, 345	△13, 742	37, 602	△79	37, 523
平成27年3月31日残高	1, 052, 739	1, 493, 796	2, 546, 536	△237, 206	10, 599, 618

(単位 千円)

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
平成26年4月1日残高	380,968	1,598,439	1,979,407	12,541,502
事業年度中の変動額				
剰 余 金 の 配 当			—	△78,937
当 期 純 利 益			—	116,539
自己株式の取得			—	△79
税 率 変 更 に 伴 う 積 立 金 の 調 整 額			—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	149,915	91,684	241,599	241,599
事業年度中の変動額合計	149,915	91,684	241,599	279,122
平成27年3月31日残高	530,883	1,690,123	2,221,007	12,820,625

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるものについては時価法（評価差額は全部純資産直入法、売却原価は移動平均法による原価法）、時価のないものについては移動平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び販売用不動産

販売用不動産は個別法により、その他は最終仕入原価法によっております。

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、取得時の法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、改正前の法人税法に基づく償却可能限度額まで償却が終了した翌年より5年間で残存価額と備忘価額の差額を均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法によっております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異（312,674千円）については、15年による按分額を費用処理しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支出に備えるため、従来の役員退職慰労金内規にない、当事業年度末要支給額を計上しております。

(5) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップの特例処理の要件を満たす場合は特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……金利スワップ取引等

ヘッジ対象……変動金利の借入金

③ヘッジ方針

内部規程である「市場リスク管理規則」に従い、金利変動リスクをヘッジするために金利スワップ取引等を行っております。

④ヘッジ有効性評価の方法

一定期間内における金利スワップ適用後の実質金利の変動幅が一定範囲内で固定化されていることを判断基準としております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度まで、営業外費用「その他」に含めて表示しておりました出資金運用損は、営業外費用の100分の10を超えたため、当事業年度は営業外費用「出資金運用損」として区分掲記しております。なお、前事業年度の営業外費用「その他」に含まれる出資金運用損は6,711千円であります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

担保資産の内容及びその金額

建 物	2,614,861千円
土 地	7,544,568千円
投資有価証券	850,773千円
合計	11,010,203千円

担保に係る債務の金額

一年内返済予定の長期借入金	426,000千円
長期借入金	2,274,000千円
合計	2,700,000千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,819,019千円

(3) 当社は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日改正）に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関する金額を課税標準とする税金に相当する金額である繰延税金負債を負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出する方法及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価による方法を採用しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

再評価を行った土地の当事業年度末における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額を下回っておりません。

- (4) 偶発債務
下記の会社の金融機関等からの借入金に対し保証を行っております。
- | | |
|-------|-----------|
| 札幌開発株 | 604,088千円 |
| 計 | 604,088千円 |
- (5) 関係会社に対する金銭債権債務
- | | |
|--------|-------------|
| 短期金銭債権 | 294,533千円 |
| 長期金銭債権 | 2,707,300千円 |
| 短期金銭債務 | 86,470千円 |
- (6) 当社におきましては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。当事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。
- | | |
|--------|-------------|
| 当座貸越契約 | 1,000,000千円 |
| 借入実行残高 | — |
| 差引額 | 1,000,000千円 |

4. 損益計算書に関する注記

- (1) 関係会社との取引高
- | | |
|-----------------|-----------|
| 売 上 高 | 150,276千円 |
| 仕 入 高 | 453,579千円 |
| 販売費及び一般管理費 | 21,523千円 |
| 営業取引以外の取引による取引高 | 24,436千円 |
- (2) 固定資産除却損の内訳
- | | |
|---------|---------|
| 建 物 | 862千円 |
| 構 築 物 | 0千円 |
| 機 械 装 置 | 191千円 |
| 器 具 備 品 | 96千円 |
| 解体撤去費 | 3,970千円 |
| 計 | 5,121千円 |
- (3) 減損損失の内訳
当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額
東京都中央区	惣菜・洋菓子工場及び 洋菓子の販売店舗	建物、機械装置、器具備品	42,036千円
東京都千代田区	惣菜の販売店舗	建物	5,035千円

当社は、原則として事業所の所在する物件を単位として資産をグループ化しており、収入の減少により収益性が著しく低下した資産グループにつき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（47,071千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物34,060千円、機械装置575千円、器具備品12,435千円であります。

なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しております。

- (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目

法定実効税率	35.64%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.21%
受取配当等永久に益金に算入されない項目	△9.87%
住民税均等割等	19.71%
評価性引当額の増減	△31.52%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.89%
税率変更による期末繰延税金負債の減額修正	△68.35%
その他	3.06%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>△47.23%</u>

- (3) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第2号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は1,340千円、繰延税金負債の金額は78,775千円、法人税等調整額が52,598千円、それぞれ減少し、固定資産圧縮積立金が51,345千円、その他有価証券評価差額金が24,836千円、それぞれ増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は91,684千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円) (注4)	科目	期末残高 (千円)
子会社	テアトル エンター プライズ(株)	(所有) 直接 100.0	資金取引 (注1) 不動産賃貸 (注2)	不動産 賃貸等	69,009	売掛金	14,256
						未収入金	3,407
						長期貸付金	1,557,000
	(株)メディア ボックス	(所有) 直接 100.0	資金取引 (注1) 役員の兼任	資金の貸付	10,000	長期貸付金	340,000
	テアトル 債権回収(株)	(所有) 直接 100.0	資金取引 (注1)	資金の貸付 及び返済	80,000	短期貸付金	240,000
						長期貸付金	150,000
	南ディーワン エンター プライズ	(所有) 直接 100.0	資金取引 (注1)	資金の貸付 及び返済	△6,000	長期貸付金	222,000
	札幌開発(株)	(所有) 直接 100.0	資金取引 (注1) 債務保証 (注3)	資金の返済	△12,000	短期貸付金	12,000
				債務保証	604,088	長期貸付金	241,300
						—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 子会社に対する資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しており、返済条件は各子会社との貸付契約によっております。

(注2) 不動産賃貸等の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。

(注3) 同社の銀行借入金等に対して債務保証を行っております。

(注4) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 162円42銭

(2) 1株当たり当期純利益 1円48銭

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は次のとおりであります。

損益計算書上の当期純利益	116,539千円
普通株式に係る当期純利益	116,539千円
普通株式の期中平均株式数	78,936,918株

9. その他の注記

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。